

ササユリ保護回復事業計画

本計画は長野県希少野生動植物保護条例に基き、指定希少野生動植物について、その個体（卵及び種子を含む。以下同じ。）の維持又は保護増殖を促進するための事業、その個体の生息地または生育地及びこれらと一体となった生態系の保全・回復及び再生をするための事業その他保護を図るための事業について定めるものである。

ササユリは平成 16 年 2 月 19 日付で指定希少野生動植物に指定された植物で、個体数が減少しつつあるが、今後、県民主体の保護活動が期待される種である。

里山生態系の象徴ともいえる本種の保護回復を図るためには、県や市町村、地域住民、NPO等様々な主体が、広範囲に連携し、生物多様性の豊かな里山を保全していくことが求められる。

1 種の説明

(1) 種の特徴

種名 ササユリ : *Lilium japonicum*

山地の林野や草原に生える多年草。葉がササに似ていることからこの名がある。6月から7月に白色から淡紅色の筒状の花をつける。日本の固有種。



(2) レッドデータブックカテゴリー

長野県版：準絶滅危惧種

(生育状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断される種)

環境省版：記載なし

(3) 分布

本州の中部地方から九州にかけて分布する。

(4) 絶滅危惧の要因

園芸を目的とした採取や自生地の自然遷移による減少が危惧されている。

2 現状

(1) 県内における生育状況

長野県版レッドデータブック（維管束植物編）（長野県2002）では、出現するメッシュ数67^(※)。県北部・中部・南部に分布する。

(※ … 県内を約5km四方に区画した全615メッシュ中の出現数。)

下伊那地域の調査においては、アカマツ林や落葉広葉樹林内の明るい林床や草原等に自生している。これらは、かつて自生地であったが、その後樹木の生長や森林化に伴い

ササユリの生育が確認できなくなった箇所であり、上層木を間伐したことにより、再びササユリが生育してきたところである。

本地域では、6月下旬から7月上旬にかけて開花し、晩秋には種子をつける。花粉を媒介するのはスズメガやヤガの仲間といった夜行性のガ類であり、これらの生息する豊かな里山環境があってはじめて本種は生育しているといえる。

(2) 地域における保護活動

下伊那地域には多くの保護団体が存在しており、間伐や草刈等の環境整備や、盗掘を防止するための監視活動、啓発活動等を実施している。

また、平成19年には、保護団体・学術団体・希少野生動植物保護監視員・警察・行政関係者から成る「南信州・希少野生植物保護対策会議」が設立され、情報交換等を行っている。

そのほか、上伊那・木曽・北安曇地域等でも保護活動が行われている。

(3) その他

- ・ 県条例：指定希少野生動植物（平成16年2月19日指定）
- ・ 自然公園法の指定植物（上信越高原国立公園、中部山岳国立公園、八ヶ岳中信高原国立公園、天竜奥三河国立公園）

下伊那郡売木村、木曽郡上松町では町村花となっているほか、旧三岳村、旧奈川村でも村花となっていた。

昭和40年代くらいまでは、薪や炭、採草などで人々がかかわり、多様な植生が広がっていた里山では、ササユリはありふれた植物として見られた。初夏に人目を引く淡紅色の花が彩り、芳香を漂わせていたササユリは、里山生態系の象徴ともいえる。しかし、生活様式の変化に伴い薪炭林や採草地としての利用が行われなくなったことにより、アカマツ林やコナラ林等の高木群落に変化し、ササユリをはじめとした里山に生育する多様な動植物は減少してきている。

3 課 題

(1) 自生地の保護・管理

本種は、薪炭林や採草地など人為により保たれてきた里山などに生育していたが、近年では里山に人の手が入らなくなり、里山の草原環境というものが減少してきている。本種を保護回復していくためには、かつて人為により保たれてきた里山の自然環境全体を回復していくことが必要である。

そのため、現在、生育が確認されている箇所では、間伐や草刈等を実施することにより、本種の生育に適した環境を維持していくことが求められる。

一方、過去に生育していたが自然遷移の進行等によって個体が見られなくなった箇所については、間伐等の手入れを進めることにより、埋土種子の発芽生長を促す必要がある。そのためには、里山の利用促進を進めることにより、豊かな多様性のある里山の自然環境を回復していくことが求められる。

また、個体の安易な移植等による地域個体群の交雑を防止するため、自生地毎の管理が必要となる。

(2) 採取防止及び普及啓発

園芸を目的とした球根の盗掘や、観賞を目的とした地上部の採取による個体への負荷等によって個体数が減少しているため、監視活動の実施が求められる。

また、里山生態系の象徴ともいべき本種については、地域全体で守っていくという意識を醸成していくことが重要であり、県民等に対して広く普及啓発していく必要がある。

(3) 野生鳥獣による食害対策

ニホンジカやイノシシ、ニホンザル等による食害が存在するとされているが、被害の程度が確認されていないことから、野生鳥獣による食害の実態を把握する必要がある。

また、食害の深刻化が予想される場合には、食害防止対策について検討する必要がある。

(4) 生育状況・生育環境調査

県内に広く自生しているが、本種の生態や生育適地についてはまだ不明な部分があることから、自生地における生育状況や、生育環境などの調査を行って情報の集積を進め、本種の生育に適した環境について分析・把握する必要がある。

(5) 生育地の管理手法

多くの団体が保護活動を実施しているが、手法や実施時期が様々であることから、(4)の結果を踏まえ、本種の生育・繁殖に配慮した自生地の適切な管理手法を確立する必要がある。

(6) 保護活動の広がり

県内各地にササユリの生育地は存在しているが、保護団体相互の連携・情報交換が行われているのは下伊那地域に見られるのみで、他の地域では保護活動がないところもある。里山生態系の象徴ともいえる本種を保護していく上では、地域住民等が里山に係る仕組みが必要であり、下伊那地域以外においても保護団体相互の連携による面的な保護活動が求められる。

4 事業の目標

生育地や個体群を現状以上に減少させないことを目標とする。そのために、様々な主体が連携して保護対策を推進できるように、保護活動団体のネットワーク化を図る。

5 事業の区域

長野県下全域

6 保護回復のために取り組む事項

A. 短期的取り組み

(1) 生育環境整備の推進

ササユリが生育する環境を整えるため、間伐や草刈等を実施する。

(2) 監視活動及び普及啓発活動の推進

盗掘を防止するために、効果的な監視体制を整備して、看板設置や監視活動に取り組む。また、本種の生育する里山の自然環境を地域全体で守っていく意識を醸成していくため、広く普及啓発活動を推進していく。

(3) 情報収集とモニタリング

本種の生育範囲は県内に広く分布しているが、その生態やかつての自生地状況などの情報はまだ未解明な部分がある。そのため、地域を定めて、モニタリング調査や播種等による生態調査を進め、生育適地の分析・把握を行う。

また、ニホンジカやイノシシ、ニホンザル等による食害の懸念があることから、野生鳥獣被害の実態を把握する。

情報収集とモニタリングは様々な主体が進め、県が取りまとめを進める。

(4) 管理手法の作成

各活動団体が効率的に保護・管理を行っていくことができるよう、本種の生態を考慮した適切なガイドラインを作成する。作成は県が中心となって進める。

(5) 保護活動団体のネットワーク化

地域で活動する各団体が、上記(1)～(4)について互いの取組みなどの情報を交換・共有し、連携して活動することにより、効率的に生育環境の保全・回復を推進することができるよう、下伊那地域での事例を参考として、各地の保護活動団体のネットワーク化を進める。

B. 中長期的取り組み

(6) 地域住民による保全体制の確立

身近な里山に生育する本種の保護を図るには、多くの主体が継続的に取り組むことが不可欠である。

そのため、里山を地域全体で守り育てていくという意識を醸成し、里山の整備を促進する利用の仕組みや体制作りを進めていくことにより、希少野生動植物ササユリをはじめとした里山の豊かな自然環境の保全を図る。

7 スケジュール

短期的取り組みについて、概ね5年で、事業による効果を検証、評価し、保護回復事業計画の見直し等について検討する。中長期的取り組みについては、短期的取り組みの進捗

を踏まえ、適宜検討するものとする。

8 参考文献

- ・長野県（2002）長野県版レッドデータブック～長野県の絶滅のおそれのある野生生物～（維管束植物編）。長野県、長野。
- ・環境庁（2000）改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック— 8 植物 I（維管束植物）。
- ・長野県植物誌編纂委員会（編）（1997）長野県植物誌。信濃毎日新聞社、長野
- ・千葉悟志（2004）ササユリはスズメガ媒植物!?。山と博物館第49巻第1号：2-4
- ・千葉悟志・清水建美（2004）長野県準絶滅危惧ササユリの生活史及び訪花昆虫-日本産草本植物の生活史研究プロジェクト報告第4報-。長野県植物研究会誌 37:1-8
- ・稲垣栄洋（2005）生態的特性の解明と到花年数の短縮によるササユリ (*Lilium japonicum* Thumb.) の自生地保全および園芸利用に関する研究。
- ・稲垣栄洋（2003）里山構成植物ササユリ (*Lilium japonicum* Thumb.) の生態特性。日緑工誌 29(1):80-84
- ・内川公人（2010）日本の野生ユリの今…。松本生談会出版、長野

9 関係者

長野県希少野生動植物保護対策委員会

福江佑子、藤田卓、宮本義彦、井上隆裕、瀬下明久、土田勝義、中山洌、横内文人、
中村浩志、両角源美、吉田利男、中村寛志、平沢伴明、藤山静雄

長野県希少野生動植物保護対策委員会 植物専門小委員会

土田勝義、中山洌、横内文人

伊那谷自然友の会

小林正明

梅ヶ久保自然愛護会

奥田祐三

ササユリ山の会

舘林孝一

ササユリを育てる会

水野勇、松沢秀和、水野兼次

飯田市水道環境部環境課

増田寿匡

飯田市美術博物館

蛭間啓

市立大町山岳博物館

千葉悟志

長野県環境保全研究所

大塚孝一、尾関雅章